

エルサレムに入城されるイエス様

中澤竜生

4月10日（日）はPalmSunday<パームサンデー>です。東方教会では聖枝祭<セイシサイ>と言って、イエスさまがエルサレムに入城された日を覚える聖日です。日本では棕櫚の主日と訳されています。

聖書にエルサレム入城が書かれている所はマタイの福音書21章・マルコの福音書11章・ルカの福音書19章・ヨハネの福音書12章です。後でそれぞれの箇所を読んでほしい。それで今回はルカの福音書19章29節～38節を題材にしお話を致します。

"これらのことを話してから、イエスはさらに進んで、エルサレムへと上って行かれた。オリーブという山のふもとのベテパゲとベタニアに近づいたとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。

「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばが、つながついているのに気がつくでしょう。それをほどいて、連れて来なさい。もし『どうして、ほどくのか』とだれかが尋ねたら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」

使いに出された二人が行って見ると、イエスが言われたとおりであった。

彼らの子ろばをほどいていると、持ち主たちが、「どうして、子ろばをほどくのか」と彼らに言った。

弟子たちは、「主がお入り用なのです」と言った。

二人はその子ろばをイエスのもとに連れて来た。そして、その上に自分たちの上着を掛けて、イエスをお乗せした。

イエスが進んで行かれると、人々は道に自分たちの上着を敷いた。

イエスがいよいよオリーブ山の下りにさしかかると、大勢の弟子たちはみな、自分たちが見たすべての力あるわざについて、喜びのあまりに大声で神を賛美し始めて、

こう言った。「祝福あれ、主の御名によって来られる方、王に。天には平和があるように。栄光がいと高き所にあるように。」"

ルカの福音書 19章28～38節 聖書 新改訳2017©2017新日本聖書刊行会

数々の奇跡を起こされたイエスさま。イエスさまがエルサレム入城される前から渦中の人となっていました。その中でも死後数日経った者が甦る<ラザロの甦り>奇跡は人々の噂となり、多くの憶測を呼びました。そのような中でのエルサレム入城です。

入城された日はユダヤ教の過越祭りの準備期間でした。人の往来も多かったことから、イエスさまの入場は、その場所の関心事であったと思われます。感極まった群衆はその地に植るヤシの木の葉をとり道に敷く歓迎をします。このヤシの木、棕櫚ですが、ユダヤ人の間では創世記に登場する「いのちの木」とも呼ばれたそうです。あるものは棕櫚、上着などを敷いて迎えたのでした。

その前に、今日の大切なポイントです。「主がお入り用なのです」という聖句です。

1、まだ誰も乗っていない子ろば。

- a. なぜロバなのかと思われる方がいますが、庶民にとって馬は高価で手に入らないものです。
- b. 聖書の預言から述べますと、「娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である、ろばに乗って。」 ゼカリヤ書 9章9節
- c. 「あなたの王があなたのところに来る」と書かれた預言が棕櫚の日を指していると考えられる。実に旧約聖書の預言が成就したのです。
- d. 「まだ誰も乗っていない子ろば」とは、捧げものとなる基準に傷汚れがないろば、イエスさまはそれに乗って十字架へと向かうのです。

2、主がお入り用。

私たちも、主がお入り用ですと言われて準備ができているでしょうか。イエスさまは、当時のように、人々に姿を見せることはありません。その分、私たちクリスチャンにお声をかけられて、代わりに果たされるようにと願っておられるかと考えます。その時に「主がお入り用」とされていることを知しましょう。

3、数々の奇跡を思い出し、歓喜のあまり大声で神を賛美した。

ここでは、イエスさまが悲惨極まりない事態で死なれる事を誰も知らない。私たちはイエスさまが何をなされたのかを知っている。心から賛美しましょう。

祈り